

介護相談員の声

「さらりとこなすプロ集団」

私が介護相談員として訪問させていただいていた施設で、Sさんに初めてお目にかかったのは2年半程前になるでしょうか…。

Sさんは、リビングにある机の前で、体を左に傾けて、無表情にじっと座っておられました。

傾いた左側に座り、視線を合せてお声を掛けても、ほとんど反応がなかったことを今もはっきりと覚えています。「Sさんとの意思疎通は難しいのだろうなあ」、その時、そう思いました。

しかし、その後、Sさんは見違えるほどに、笑顔が素敵な方になられるのです。

2週間に一度の訪問とはいえ、各フロアを訪問させていただきますから、Sさんにお目にかかれるのは、せいぜい2、3ヶ月に一度です。

その2、3ヶ月に一度ごとに、驚きの嬉しい変化を見せていただいたのです。

無表情だったお顔に笑顔が戻り、とうてい自力歩行など不可能と思われた方が、スタッフに見守られながら館内をお散歩されていたのです。

途切れ途切れではありますが、私のように、Sさんからしたら突然の訪問者とも笑顔で会話をしてくださるようになりました。

ドキュメンタリードラマを見ているような変化でした。

まさに、「介護のプロ集団」が、眠ってしまっていた、Sさんの現有能力を引き出されたのだと思います。

その施設では、実に素晴らしい生活リハビリが多く見られます。

車椅子に座りっぱなしにしない。それは当然のことながら、車椅子から椅子へ、そしてソファへ、そしてまた「あちらに腰掛けましょうか…」と誘導なさる…。

生活動作一つ一つをリハビリに繋げておられます。

ミーティングの時に、このことを話題に上げましたら、「生活リハビリをしなくてはならないとか、そういう特別なものではなくて、その方にとって、こうしたらいいなと思うことを普通に職員皆がしているだけです」とおっしゃいました。

介護はマンパワー！「さらりとこなすプロ集団」が、日々笑顔で頑張っておられます。

京都市介護相談員 横山 和子